



拓本(表)

寛政元癸卯八月之夜
夢中感得之偈

多宝山三十世仮名法輪実名宜照
武州幸手内国府間新井氏之産也

四季之吟

六大仮花出地中
不可得月入水輪
無常迅速有今日
暖暑涼寒代不留

隴氣八日和の種子や春の月
短夜者朝寝の種子や夏の月
人更に哥読む種子や秋の月
かんくと氷の種子や冬の月

有為の世と思へ者無為の花紅葉

ひらくも散もこの三あればそ

一陽井門人

誹名嘯月庵

露水

銘文(表)

東都玉池
誹諧談林七世
谷素外

名月与
花も紅葉も
阿る夜哉

百練の鏡や月の厚氷	大越
紅梅もあやなく白し隴月	同 松調
野路広し露の恵も月の思	同 露調
月今宵上見ぬ驚も見る夜哉	同 秋調
八重一重隴や包む月の梅	同 露精
名月や遠眼に人もありくと	吉田 耕哺
千秋の今様もなき月見かな	高梨 胤白
色つくや木々の仲空峰の月	龜山 蛙谷
のふくと花の上なる月見かな	石塚 文斯
晨や五月の月見者誰もせめ	上野 露秀
おもて白く月待宵の明にけり	手塚 蛾光
惜し三晷短しと夜をかやの月	長井 青虹

銘文(裏)

文化四丁卯仲秋望日

門人建之

露精書